



# 広島県支部会報



平成26年1月19日

## 第59号 学校防災を考える ～防災士の関わりについて～

日時：2014年1月19日 13時30分～14時20分

場所：広島市東区民文化センター1階会議室

主催：日本防災士会広島県支部

参加者：広島県支部会員30人

講師：山口県支部事務局長 幸坂美彦氏

演題：「学校防災を考える」～防災士の関わりについて～

講師紹介：消防署、消防学校勤務後、現在人づくりに取り組み、防災啓発活動に従事、県内外で多くの活動を実施、経験されている。今回は学校防災アドバイザーとしての話をして頂いた。

広島県支部長挨拶：

現在地域防災のテーマとして学校防災の必要性の認識が高まりつつある。防災士の対応力を備えて地域に活かして貰いたい。司会進行は今井副支部長が担当した。

講演内容：

(1)＜学校防災について＞

- ・全校小学校（600人）で実施することもある。対象は2年生として話をする。
- ・学校の体制を理解するには消防管理者の選任、届出、消防計画などを把握すること。
- ・学校の実質推進者は管理権限者（校長）、防火管理者（教頭）。
- ・実績：学校防災マニュアルの点検、幼、小、中、高など600校、避難訓練指導50校など豊富な経験あり。

(2)＜経験から感じたポイントや気付き点＞

- ・2次避難所への避難訓練実施が必要。
- ・保護者への引き渡しの確認。
- ・学校施設や学校周辺の安全確認訓練。
- ・行政の横の連絡調整が必要。
- ・県民の防災意識が全般的に低い。
- ・学校、担当者で温度差がある。
- ・殆どの学校で防災マニュアルは確立されているが職員には周知徹底していない。



講師 幸坂美彦氏



広島県支部長挨拶



参加県支部会員の様子



参加県支部会員

### (3) <避難訓練>

- ・避難場所の調査選定と避難訓練の実施が必要。
- ・生徒の保護者への引き渡しは簡易一覧表で確認する。
- ・避難訓練は複合災害を想定し、実践的なものとする。
- ・近隣の幼、小、中、高、地域での訓練を実施すること。
- ・休憩時間利用の訓練も出来る。
- ・早い避難も必要だが、安全な避難が一番重要。
- ・シナリオは多い、先生は避難者でなく避難誘導者である。
- ・校内放送は使えない。他の連絡手段を考えておく事。
- ・避難訓練には地域の人参加、参観日などを利用して保護者も参加する事。
- ・自助：自分の命は自分で → 自分でできることは自分で行う。
- ・共助：地域のことは地域で → 学校や生徒たち、皆んなで出来ることはなにかを考え実施する。
- ・小学校高学年、中学生は地域の力であることを自覚して助ける側に立って行動する。  
日頃から応急手当やAEDの使用法、救出方法、避難誘導など注意事項を身に付けておく。
- ・避難所の運営は地域の避難者が行う。 → 日頃から地域の連携、協力が必要。
- ・学校の管理スペースは禁止表示とし、避難者は立ち入らない

### (4) <学校施設及び周辺>

- ・校内の危険なところはわかっているか確認。
- ・校外の危険な箇所、安全な場所は分かっているか調査確認する。
- ・ヒヤリハットを調べ解決する。 → 地震で倒壊、危険なものの確認。
- ・校長室や教員室は立ち入り禁止とする。
- ・若手教職員の研修の実施。  
学校防災の進め方、避難訓練等の計画と指導、  
防災対策のキーワード → 「知る」、「見る」、「伝える」
- ・防災安全教育の計画実施。
- ・「あいさつ運動」をする → 地域の人との登下校時挨拶はコミュニケーションと信頼  
確立に大切。

### (5) <山口県の過去の災害>

- ・台風、高潮、洪水、土砂災害、地震、その他

### (6) <南海トラフが動くと → 知っておく事>

- ・被害想定
- ・南海トラフ巨大地震と津波
- ・何ができるか
- ・なにしておくか → 備えておく事
- ・纏め → ①出来る、出来ないでなく、やるしかない（知恵を活かして）  
②工夫を凝らした訓練や方法で（地域性を取り入れる）  
③「助けられる」から「助ける」へ（地域の力に・・・）  
全ては「人と人とのつながり」です。

### <感想>：

防災分野の消防専門家としての豊かな経験に基づき防災の啓発、教育、防災訓練の指導に取り  
組まれた講演は大変有益であった。

今後とも防災・減災の効果を目指して活躍され、指導・協力を期待する。  
また、我々防災士が話をする際、心得、身に付けておくと役立つポイントの助言もあり、有益であった。(笑顔していますか、滑舌よい言葉となっているか、話し方を考えているか、事前の準備はしているか、防災士とは、学校防災アドバイザー事業、取り組みについて、纏め、質疑応答など、全体を見ながら話す、うなずく人に合わせながら話す、直近の災害を話題にいれていますか等)。会報としては内容が詳細過ぎたがそれだけ防災士の皆さんの役に立つとの判断からです。

(広報担当 桑木光信)